

『幼稚園の現場から』

11・イブニング保育

原町幼稚園(静岡県沼津市) 園長 鶴谷圭一

たまたま編集長と知り合いということから、対人援助マガジンに幼稚園園長として書かせてもらっています。これまで10回のインデックスを出してみました。なんの脈絡も無く行き当たりばったりだなあ…、それなのに載せてもらって感謝しています。

第1号	2010年-6月	エピソード
第2号	2010年-9月	園児募集の時期
第3号	2010年-12月	幼保一体化
第4号	2011年-3月	障害児の入園について
第5号	2011年-6月	幼稚園の求活
第6号	2011年-9月	幼稚園の夏休み
第7号	2011年-12月	実際の事例から一怪我の対応
第8号	2012年-3月	どうする保護者会？
第9号	2012年-6月	おやこんぼのすすめ
第10号	2012年-9月	これは、いじめ？

11回目からは、原町幼稚園で行われている「教育実践」について書いていこうと思います。教育実践というと固い感じがしますが、言い換えれば「日々子どもたちとやっていること」ですね。

日本全国の幼稚園数はざっくりと行って13,000、そのうち私立幼稚園8,000、残りが公立ということになると思いますが、その教育内容たるや千差万別、実にバラエティーに富んでいます。その中の一つの実践と思って読んで頂けたらと思います。

夜の幼稚園を楽しもう

さて今回は、つい先日(11/21・22日)終わったばかりの『イブニング保育』についてレポートします。

午後3時

いつもなら降園バスが走る時間に園バスがお迎えに出発しました。園バスを利用せず保護者が送迎する子どもたちもポチポチ登園してきます。

門や園庭で「こんにちは！」と元気な声が交わされています。子どもたちも自分で言いながらなんとなく、はにかんでいる様子が“いつもとちがう幼稚園のはじまり”を予感させて、ワクワク感が高まります。



夕暮ってうただけでテンション上がるね！

かばんの中にはお弁当が入っていて、今日は“夕食弁当”が楽しみの一つなんです。自分の保育室に入った子どもたちはいつものようにかばんを置いて、着替えをして、園庭に出てきて遊び始めます。そのうち園バスも到着して仲間が増えてきました。

子どもたちは、思い思いにブランコや鉄棒、砂場あそびや、足蹴り二輪車にまたがって園庭で遊んでいます。いつもより興奮気味で、話す声がついつい大きくなってしまっています。だってこんな時間帯に外で友だちと遊べる日っ

て一年に何回あるでしょうか。

だんだん日が傾き夕暮れになるにつれ、子どもたちのテンションは逆に昇っていきます！教師は、楽しい反面はしゃぎ過ぎて怪我をしないか注意しながら一緒に遊びます。部屋に入る時間は年齢ごとに活動内容が異なるのでそれぞれの年齢ごとに呼ばれて部屋に入っていました。

午後4時半頃

この頃には全員が部屋に入って、その日の主活動(一斉保育、設定保育などと呼ばれるいわゆるクラス単位でおこなう授業のような時間)に取り組みます。

各年齢のおおまかな流れはこうなります。

トイレに行ってホームルーム(出席をとったり歌を歌ったり、出席帳にシールを貼ったり)

主活動(イブニング保育のメイン活動)

午後6時頃

夕食弁当(約30-45分)

帰り支度(約15分)

午後6時45分ちょうど

降園バス出発(お迎え引き渡し)

さて、午後3時から6時45分までの4時間弱の間に、幼稚園に来て子どもたちはいったい何をしているのでしょうか？

年少組〈よるのたんけん〉

まず、年少の主活動から見ていきましょう。

年少の活動テーマは、

〈たんけん！夜の幼稚園！〉

11月の静岡県の日没は4時半頃、部屋に入る頃には周りが薄暗く、部屋でホームルームをしている間にぐんぐん暗くなってきています。

年少の部屋では、ホームルームが終わってまずお弁当の準備。テーブルにお弁当セットを出して支度をしたら「み

んな、お家から持ってきた懐中電灯を鞆から出してきて」と先生が言いました。

各々に鞆からいろんなタイプの懐中電灯、ペンライトを出してきました。余談ですがほとんどがLED電球の白い光でしたね。

さあ、ここからが演出です。

「みんな、外はどのくらい暗くなったのかな？電気を消してみよう、カウントダウンいいかな！5・4・3・2・1!!!」

スイッチを切った途端に「ワー！キヤー！」の歓声があり、みんなが一斉に手持ちのスイッチをオン！私たちが予想外でしたが、LEDが多いことも影響しているのでしょうか、30人のライトがキラキラしてなんとキレイなイルミネーション効果！



〔ワーキレイ！天井に向かってライトをグルグル〕

じっと持っている子どもなんていませんから、ライトをグルグル動かして天井を照らすのがいちばんキレイでした。その次に、先生の指示する場所をその場所から一斉に照らします。トイレ、壁掛け時計、写真、ピアノ…暗い部屋なのに、一瞬でそちらに光が集まり、年少さんといえどもモノがある場所をよく把握しているなあ、と感心。

そのうち変わったことを発見する人が現れます。お弁当を照らしてみたり、机の下を照らしてみたり…コップの中に入れてみたら行灯みたいになって、みんなでやってみたりしました。

ひとしきり遊んだあとで、全員のライトを消して先生が「夜って暗いね」と改めて実感。そして部屋の電灯のスイッチを入れるとパッと明るくなり、「電気ってすごいね」とまた実

感。



[みてみて！コップに入れたら黄色になった]

そのあとは、ペンライトを持って、園庭や園内を歩き回り探検をしたのです。その様子は、もちろん楽しい様子がいっぱいですが、書ききれませんのでご想像におまかせします。

探検から帰ってきたら、用意しておいたお弁当を食べながら探検話も弾んだことでしょう。



年中組〈オシャレなディナー〉

年中組は、イブニングを始めた4年前からずっと同じ活動を続けています。テーマは、

〈キャンドルホルダーづくり！〉

活動自体はそんなに珍しい内容ではありません、昼間でもできる活動ですが、このイブニングでやることに意味を持たせています。

早めにホームルームを終えた年中組は、汚れても良いスモックに着替えて、ガラスのキャンドルホルダーに、ガラス専用の絵具を使って自分のものをデザインします。



[集中してデザインに取り組む年中さん]

そして、でき上がったホルダーにろうソクを入れ、夕食弁当を、その灯だけで食べるのです。オシャレなレストランのような雰囲気、しかも自分の作ったキャンドルホルダーを眺めながらの夕食弁当は格別おいしそうです！



年長組〈ゲラゲラ影あそび〉

年長組は、今年は、「かがくのとも」という月刊絵本に「なんのかげ?」という影遊びが載っていたので、実際に遊んでみよう!ということから、ホールに大きなシートを張って裏からライトの光を当て影あそびを楽しみました。



最初は絵本のように、先生が用意したモノの影を見て当てる「モノ当てゲーム」。角度によって違うものに見えたり、光源の距離によって大きさが変わったりする様子を体験しながら遊んでいきます。

次に、「お友達当てっこゲーム」になり、みんなが目をつぶっているところから、そっと選ばれた数人がシートの裏でポーズをとって誰か当てるゲームをしました。しかし、普通に立っているとすぐにわかってしまいました。



髪形や顔の輪郭、体形だけでなく、その日着ていた服からも、子どもたちには誰が隠れているか瞬時にわかってしまうのです。そこで、ジャンパーのフードをかぶったり、モノを持ったり、二人組になったりしながら出題者は工夫し始め、徐々にレベルアップしていったため、30分以上もの長い時間をかけて皆が集中し、全員が出題者になることができました。しかも、誰かが登場するたびに笑いが起こる楽しい

雰囲気、そして友だちとの繋がりがとても感じられた活動となりました。

その後、屋上に出て月や星、幼稚園周辺の自分たちの住む街の夜を眺めて帰ってきたのです。



これまでのこと

イブニング保育は今年で5年目になります。最初は、園舎建築のために、毎年恒例の夏の納涼祭りができない、せめて盆踊りだけでもできないかということで考えました。「必要は発明の母」とも言いますが、まさにそこで生まれた苦肉の行事といえます。そこで良かったのは「わざわざ夕方来て盆踊りだけじゃつまらない、なにか活動を考えてくれ!」と先生たちに要求し、「盆踊りの夕べ」というようなベタな名前にしなかったことが今につながっているのだと思います。

いやほんと、ネーミングって大事ですよ!

翌年には園舎も完成し、納涼祭りもできるようになったので「回こっきりの行事だったのに「なんか楽しかったから」ということと「イブニング保育」という名前のおかげで続けてこれたのです。時期は最初の年と同じ夏の時期です。

ところが、4回目となった2011年は台風が来て延期になってしまいました。予定が取れずに12月の終業式前の2日間が無理やり充てられました。

「寒いじゃないですか!」

「風邪ひいたらどうするんですか!」

「いったい何やるんですか!」と保護者の皆さんからちょびっと後ろ向きの声もあびつつ、まあまあイルミネーション

も飾ってほら、いい雰囲気です。やりますから！となだめすかして…確かに寒かったけどなんといっても「日没が早い！」というのが思わぬ収穫だったのです。

おまけに、冬のイブニング保育だと終了時間のお迎えが早くスムーズ！（夏はお母さんのお迎えが遅かったり、お迎えついでに園庭で遊んだりしてしまう子がいたので…）

なので、今年も冬のイブニングとなった訳です。

参考資料

幼稚園関係の方で、興味がある方のための情報

イブニング保育の目的

- 【1】夕方から夜にかけて幼稚園で過ごし、非日常の園生活を楽しむ。
- 【2】普段あまり気にとめない“夕暮れや夜”のいろんな現象に気付いてみる。
- 【3】夜ならではの印象深い活動を経験する。

キーワード

「夜って なんだね！」

活動計画のための段取り

日没予定時刻に合わせて登園時刻を設定。

大まかな計画案を作り、時間割を決める。

2日間の登園日を割り振って名簿を作成し、保護者にお便りで登園日の可否を伺う。*1

それぞれの家の都合を考慮して最終的な登園日名簿を作成、発表。（但し前日変更も可）

平行して各年齢ごとに活動案を立て、教材準備

当日のバス添乗等の確認

当日の日中預り保育希望者の確認と段取り *2

*1/原町幼稚園は年少・年長まで2クラス(合計60人)ずつ6クラス(180人)あります。イブニング保育では、バスコースごとに人数を半分に分け、2日間行ううちのどちらか1日だけ保育日、もう一日はお休みにしています。夜間にバスを走らせる時間をふだんの半

分にするためと、夜なので少人数で保育を行いたいためです。

ただし、幼稚園の都合だけで押しきろうとすると、どんなに良い活動

でも保護者の不満は解消されませんので、保護者の都合で最終的に登園日を選択できるようにしておきます。

*2/昼間に仕事をしている母親も多いので昼間に預りが必要な方は預かれるようにしています。年少より一学年下の満3歳児クラスも、日中の保育を行います。

資料その他

キャンドルホルダー/IKEAのガラス製が安くて丈夫。セットでキャンドル購入がお勧め。80円程度/一人分

園内のディスプレイ用のアロマキャンドルもお勧め

ガラス用絵具は

絵本「かがくのとも 2012年11月号・なんのかけ」

福音館書店 ¥410

掲載の写真はISO値を上げてスローシャッターで撮影していますので、実際よりも明るく写っています



[屋上でライトをグルグル]

まとめ

イブニング保育は幼稚園ならではの活動だと思います。夕方6時7時まで、さらに子どもたちがいる保育園の子どもたちにとっては、日常的に園で夜を迎えているからです。

2日間かけて行いますが、そのうち1日はお休みになってしまいます。今年も日中の預り保育希望者を募りましたが、1日5名もいませんでした。仕事(パート)をしているお母さんも多いのですが、予め休みをとったり家族で協力してイブニング保育に備えてくれていました。ありがたいことです！



幼稚園の行事の中では、習得する活動と、感じる活動があると思います。たとえば運動会で発表する跳び箱やダンスは、習得した成果を発表するという意味合いが大きい。

遠足などのようにその行事活動そのものが楽しく、何かそこから子どもたちが経験し、感じてくれることを期待する活動もあります。

イブニング保育では、時間帯が変わることで子どもたちの表情に昼間とはずいぶん違った高揚感があふれ、何人もの笑顔が何度も見られました。

「だから何かしらイイことがあるに違いない」、...そんな思いで続けている活動です。



[バイバイ！夜の園バスも走ります。街の人たちがあれ？何でこんな時間に！？って顔で振り返るそうです。

都会の幼稚園では、預り保育の送迎バスが夕方には走っているそうです。だから珍しいことでは無いでしょうね。]



ツルヤシュイチ

(幼稚園勤務29年/うち園長10年目)

<http://www.haramachi-ki.jp>